

地域ケア推進会議 報告書

【医療・介護連携に関する場合のみ】

提出日	2025年1月27日
作成 高齢者支援センター	町田第1
作成者	川合美里

1.開催日時	2025年1月17日	(金)	19:00	～	21:00	
2.会場	町田第1、第2、第3高齢者支援センター					
3.主催センター	町田1	・	町田2	・	町田3	
4.参加人数	95名					
5.参加者内訳	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者支援センター	15人	<input checked="" type="checkbox"/> 医療と介護の連携支援センター	1人		
	<input checked="" type="checkbox"/> 医療関係者	16人	(うち、医師	5人)	<input checked="" type="checkbox"/> 介護事業者	58人
	<input type="checkbox"/> 民生委員	人	<input type="checkbox"/> 老人会	人	<input type="checkbox"/> 住民	人
	<input type="checkbox"/> 町内会自治会	人	<input type="checkbox"/> 警察	人	<input checked="" type="checkbox"/> 行政	3人
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 (薬科大学地域医療部門 教授・助教 2名)					
6.開催テーマ	ACPを自分ごととしてポジティブにとらえてもらうために、支援者としてできることを考える					
7.地域課題	<p>(1)課題設定の背景</p> <p>独居高齢者、認知症高齢者が増加し、本人の意思が確認できず、支援方針に悩むケースが増えていることから、もっと早い段階からACPについて働きかける必要性を感じている。しかし、いざACPに取り組むとなると、意向を聞くタイミングが遅れがちである。関係性から踏み込みづらい等の課題がある。企画メンバーで私の思い手帳を記載して見たところ、将来の気持ちを想像することは難しく、その時々気持ちを聞き取る、生活歴など多様性を尊重することが大切であることがわかった。まず、ACPを自分事として考え、ポジティブに捉えてもらうために支援者として何ができるか考える。</p> <p>(2)検討した地域課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独居高齢者が増え、将来望む生活について、家族や身近な人と共有ができていないケースが多い。 ・ACPに対し、ハードルが高いイメージを持っている専門職が多い。 ・元気うちから、楽しみ・生きがい・こだわりなどを断片的であっても記録に残す、生き方や希望をもっと気軽に話しあえる機会や関係性が必要である。 ・支援者がACPを意識した関わりを持つことでもっとACPを普及していくことができるのではないかと。 					
8.会議の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ACPをテーマとして掲げた背景について主旨説明を行う。終末期に限らず、どう生きたいか？に着目したポジティブなACPを目指したい ・取り組む上で難しいと感じていること(切り出すタイミングが難しい、関係性から真意を聞きづらいことがある、職種による関わり方の活かしたい等)を共有する ・『わたしの思い手帳』の活用方法について説明を行う。認知症カフェで『わたしの思い手帳』を活用した取り組みを紹介する ・自分事として、『わたしの思い手帳』に今の気持ちを書き込む(個人ワーク)。 ・書き込んでみた感想をグループ内で共有し、支援者のサポート的な関わりについて話し合う。 ・グループ内で出た意見を各会場から発表。 					
9.課題に対する対応策・今後の地域での展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ACPを繰り返し行うことの必要性を共有できた。 ・自分ごととして捉えることで、各専門職がどのようにアプローチしたらよいか、考えるきっかけとなった。 ・ACPを重く捉えず、ポジティブかつ、各専門職が取り組みやすい切り口から話をしていく。 ・まずは信頼関係の構築が必要となるため、時間がかかるという課題も見えた。 ・『わたしの思い手帳』を各事業所で活用し、実践していく。 ・ACPのテーマを随時取り上げることで、より身近なものにしていく。 					
10.その他						

医療と介護の連携支援センター 確認日	1月24日
--------------------	-------